

構成障害の観察・練習シート（OT） | 1. 単純図形の模写

目的：まず手がかりを入れずに自然な反応を観察し、その後に必要な手がかりを選び、反応がどう変わるかを確認します。診断・標準化検査ではなく、OTの観察・練習補助として使用してください。

①自然な反応をみる → ②必要な手がかりを選ぶ → ③反応の変化をみる

	模写・再現スペース	円 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無
	模写・再現スペース	正方形 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無
	模写・再現スペース	三角形 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無
	模写・再現スペース	ひし形 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無
	模写・再現スペース	十字 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無
	模写・再現スペース	2つの図形 観察：開始位置／大きさ／形／位置関係／修正の有無

手がかり例：枠を示す／開始点を示す／全体を指さす／部分を指さす／見本との位置関係を言語化する。
記録では『どの手がかりで反応が変わったか』を残し、単に上手・下手だけで評価しません。

構成障害の観察・練習シート（OT） | 2. 複合図形・部分と全体

目的：複数の要素を含む課題で、部分の捉え方、全体構成、開始方法、修正の仕方を観察します。必要に応じて手がかりを追加し、変化を確認します。

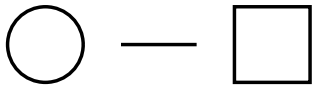
全体を先に捉えるか／部分から始めるか／部分間の位置関係／省略・付加／修正方法



図形3要素

反応メモ：

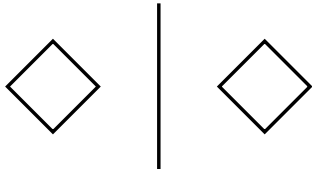
- ・最初に見た／描いた部分：
- ・部分間の位置関係：
- ・省略・付加：
- ・手がかり後の変化：



左右の位置関係

反応メモ：

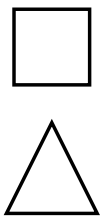
- ・最初に見た／描いた部分：
- ・部分間の位置関係：
- ・省略・付加：
- ・手がかり後の変化：



中央線と左右

反応メモ：

- ・最初に見た／描いた部分：
- ・部分間の位置関係：
- ・省略・付加：
- ・手がかり後の変化：



上下の構成

反応メモ：

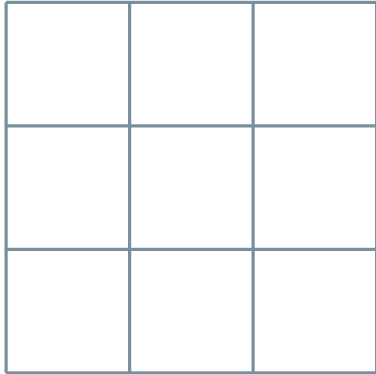
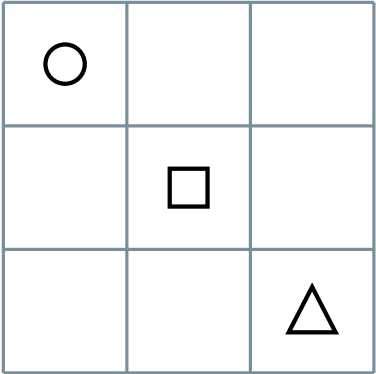
- ・最初に見た／描いた部分：
- ・部分間の位置関係：
- ・省略・付加：
- ・手がかり後の変化：

難易度調整：図形の複雑さ、要素数、境界の見やすさ、見本との距離、手がかり量などを患者の反応に合わせて調整します。固定された順番で難しくするのではなく、何が助けになったかをもとに次の課題を選びます。

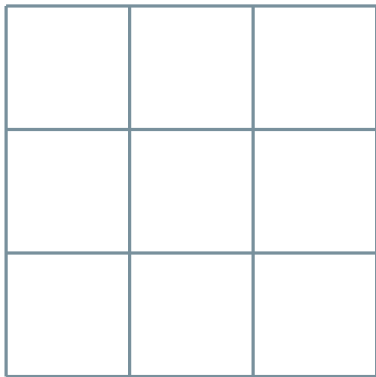
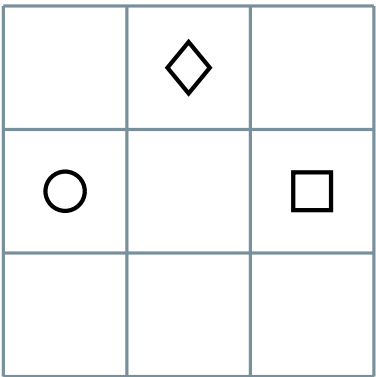
構成障害の観察・練習シート（OT） | 3. 空間配置

目的：位置関係や配置を再現する課題です。片側性が見落としが強い場合はUSN、図形自体を保ったまま向きだけが変わる場合は方向認知など、他の要因との混同に注意します。

課題A：左の見本を、右側の3×3マスに再現してください。



課題B：必要であれば、位置関係を言葉や指さしで手がかりとして使います。



観察メモ

- ・見落としに左右差があるか：
- ・配置全体が一方へ偏るか：
- ・図形そのものの形は保たれているか：
- ・手がかり（指さし／粹／言語化）で変化したか：

混同に注意：片側の探索・見落としが主な場合はUSNの評価視点も必要です。図形は正確だが向きだけが変わる場合は、構成だけでなく方向認知なども検討します。このシートだけで障害名を決定しないでください。

ADLへつなぐ例

- ・更衣：衣服の左右・上下・位置関係
- ・整容：道具と身体部位の位置関係
- ・食事：食器・物品の配置
- ・机上作業：必要物品の定位置化

机上課題で変化がみられても、そのまま生活場面で改善したとは判断せず、実際のADLで再確認します。

構成障害の観察・練習シート（OT） | 4. 記録とADLへの接続

目的：課題成績だけで終わらず、『自然な反応→有効だった手がかり→次の課題→ADL』を一続きで記録します。

基本情報

実施日	
課題	
自然な反応	
崩れ方・特徴	
使用した手がかり	
手がかり後の変化	

次の課題を決める

次回も確認したい特徴	
減らす／追加する手がかり	
次に選ぶ課題	
難易度調整の理由	

ADLで確認する

生活場面	更衣／整容／食事／物品配置／その他：
ADLでの反応	